

第3回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日時 平成29年6月29日（木）午後3時から午後5時
- 2 会場 東京都庁第二本庁舎10階 213・214会議室
- 3 出席者 出張委員（委員長）、増淵委員（副委員長）、佐々木委員、森山委員、高橋委員、藤井委員、小林委員、矢下委員、坂田委員、山下委員、野村委員、上原委員、竹村委員、朝日委員、早川委員、江藤委員、大和委員

4 議事内容

（1）「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標について」について

- ・主任教諭、指導教諭、主幹教諭など、それぞれの役割や職層に応じて求められる力を更に整理する必要がある。
- ・「主体的・対話的で深い学び」やカリキュラム・マネジメントも重要であるため文言に入れるとよい。
- ・指標は、研修等で全ての教員に周知徹底する必要がある。
- ・指標は教員の業績評価に必ずしも連動させるものではないが、自己申告の中で指針を活用していくことは考えられる。
- ・教育管理職や管理職候補者の指標に記載している内容について、更に吟味する必要がある。
- ・主幹教諭までは、集団の中で支えられながら育っていくものだが、管理職候補者以降は、集団の中心的存在となり、個人として自立して学校を経営するという責任があるため、集団から個人へと移行していく部分をうまく育成できるような指標にする必要がある。
- ・管理職候補者には経営者の立場としての組織経営やリーダーシップなど学べるような内容が必要である。
- ・人材育成には自己啓発が欠かせない視点であるため、今後議論する必要がある。

（2）東京都教職課程カリキュラムについて

- ・若手育成研修の内容を網羅されている内容である。
- ・冒頭に述べられているコミュニケーション能力は大事な視点である。
- ・教育実習は短期間なので、継続的な学校での体験が重要である。
- ・インターンシップが教育実習の2単位まで認められることになり、その点をカリキュラムにどう位置付けていくのかを今後検討する必要がある。
- ・今回の教職課程カリキュラムは、小・中・高の各校種に共通のものとして示しているが、なぜ共通といえるのかという根拠を示す必要がある。
- ・重点を置く内容についてバランスよく位置付ける必要がある。

（3）教員研修計画について

- ・東京都が行う研修と、区市町村教育委員会が行う研修の組み合わせを工夫していくことが重要である。
- ・研修の実効性を高めるためにも多様な形態による研修を今後工夫していく必要がある。
- ・校内研究や地区の研究推進団体等における研究活動によって、教員としての力を付けることができるため、「マイ・キャリア・ノート」を活用していく必要がある。